

## (10) 四 国



四国地域では、景気は緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は緩やかに持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(   は上方に変更、   は下方に変更)。

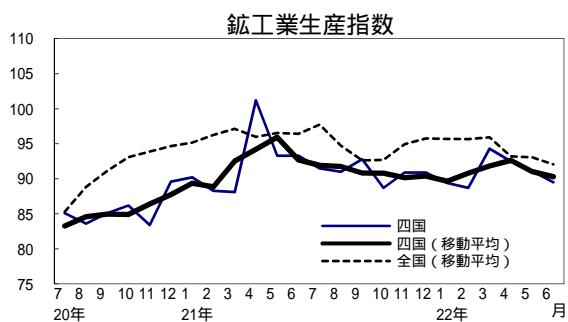
### 前回からの主要変更点

	前回(令和4年6月)	今回(令和4年9月)	
景況判断	持ち直しの動きがみられる	<u>緩やかに持ち直している</u>	
個人消費	このところ持ち直しの動きがみられる	<u>緩やかに持ち直している</u>	

### 1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

4 - 6月期の鉱工業生産は、非鉄金属や食料品が増加したこと等により、前期比 0.2%増となった。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1 - 3 月期	4 - 6 月期	4月	5月	6月
化学・石油石炭	22.1	0.5	1.2	21.7	11.9	2.7
食料品	13.8	2.7	2.2	3.4	7.5	5.7
電気機械	12.8	2.7	2.0	15.1	0.9	11.2
汎用・生産用機械	11.3	3.3	0.0	7.4	9.9	3.0
輸送機械	7.9	0.5	3.4	2.5	0.5	3.2
鉱工業	100.0	0.7	0.2	1.9	1.5	1.8

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 4 - 6期、6月は速報値。

(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。四国の最新月は速報値。

2. 全国及び四国の太線は中心3か月移動平均。  
直近月は2か月平均。

## 2. 個人消費の動向

個人消費は緩やかに持ち直している。

### (1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

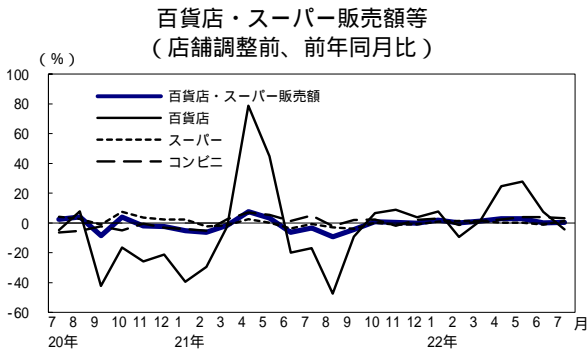
4 - 6月期は前期比2.0%増となった。月別にみると、4月は前月比0.4%増、5月は同2.2%増、6月は同2.8%減となった。

### (2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、4 - 6月期は前年同期比1.9%増となった。月別にみると、4月は前年同月比2.8%増、5月は同2.9%増、6月は同0.0%増となった。

百貨店は、4 - 6月期は前年同期比18.7%増となった。

スーパーは、4 - 6月期は同0.2%減となった。



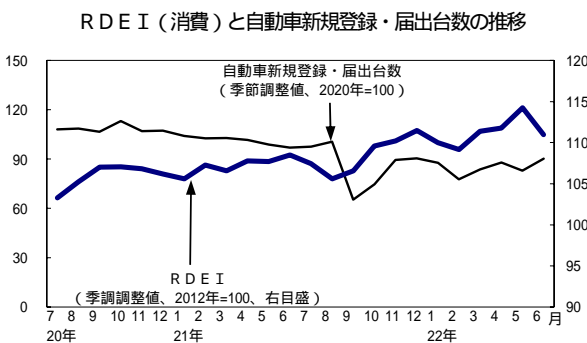
	2022年	2022年			
	4 - 6月	4月	5月	6月	7月
RDEI (消費*1)	2.0	0.4	2.2	2.8	
百貨店・スーパー(*2)	1.9	2.8	2.9	0.0	0.4
百貨店(*2)	18.7	24.6	27.7	7.5	4.4
スーパー(*2)	0.2	0.2	0.2	1.1	1.3
コンビニ(*2)	3.4	2.3	4.0	3.9	3.2
乗用車(*3)	12.4	14.1	15.6	7.7	1.5
(季節調整値)(*3)	4.8	5.0	5.7	8.8	8.5

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

2022年7月は速報値。

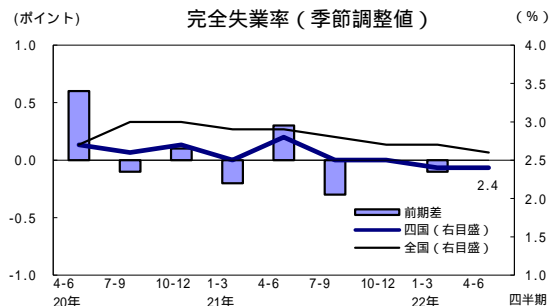
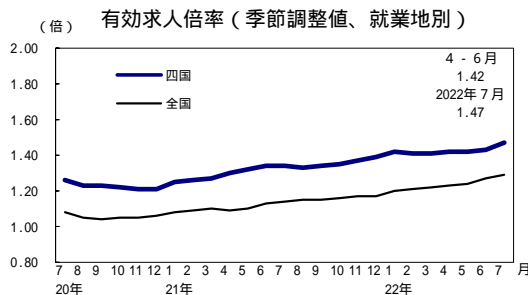
3. 乗用車は、新規登録・届出台数 上段は前年同期(月)比 (%)



## 3. 雇用情勢

雇用情勢は緩やかに持ち直している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期と同水準となっている。



(備考) 内閣府にて季節調整をおこなったが、季節性が認められなかったことから、原数値と同じ。

(13) 景気ウォッチャー調査（令和4年8月調査）景気判断理由の概要

10. 四国

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野		判断	判断の理由	
現状	家計 動向 関連	□	・猛暑のなかでも夏物商材の売上が思うほど上がっていない。新型コロナウイルスの第7波の感染拡大以降、年配の方の来店が減ってきている（家電量販店）。	
		▲	・生産台数の回復が遅れて登録台数が伸びず、売上につながらない（乗用車販売店）。	
		○	・行動制限も無く、お盆期間中はかなり人が動いたと思う。コロナ禍で帰省がかなわなかった人も今年は帰ることができ、当店も来客数が多く多忙であった（美容室）。	
	企業 動向 関連	□	・半導体不足による調達環境の悪化や原材料価格の高騰、円安の進行に加え、ウクライナ問題などの影響で、状況は厳しさを増している（一般機械器具製造業）。	
		○	・猛暑が続いたことや全国の観光地に人出があったことなどから夏用のタオルがよく売れている。外国人観光客はまだ戻っていないが、国内の観光地では6～7割程度まで回復している。一般小売店では、多少価格が高くても魅力的な商品を求めており、新型コロナウイルス感染症の収束後に向けて前向きな動きもある。当社では扱っていないコンサート用のタオルやインバウンド向けホテルの需要はまだまだ厳しいようだ（繊維工業）。	
		×	・卸売価格は、果実と花木はまずまずのところだが、主力の野菜が大きく低迷しており、園芸品全体では厳しい販売が続いている。特に、順調に出荷が続いている果菜類の価格が低調である（農林水産業）。	
	雇用 関連	▲	・企業の求人数は横ばいで、その多くで採用には至らず、人手不足感がある（求人情報誌）。	
		□	・物価上昇や新型コロナウイルス感染症の影響で、景気は予想以上に回復できていないように感じる（民間職業紹介機関）。	
	その他の特徴 コメント			○：コロナ禍で初めて行動制限のないお盆を迎え、人の往来が活発になっている。祭りや帰省、観光でにぎわい、売上が目に見えて伸びた（コンビニ）。 ▲：新型コロナウイルスの感染拡大が続き、個人客に少し動きはあるが、修学旅行以外の団体客の動きは止まっている（旅行代理店）。
	先行き	家計 動向 関連	□	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加傾向にあり、引き続き来客数が減少したまま推移すると予想する（一般小売店 [生花]）。
▲			・急激な円安の進行や燃料費の高騰、またそれに起因する物価上昇等の不安要素が大きく、新型コロナウイルス感染症が再拡大しており、景気が回復する要因がない（スーパー）。	
企業 動向 関連		□	・新型コロナウイルスの感染第7波の影響が続いており、客先のイベントや販売促進活動の復活が予想よりも遅くなっているため、しばらく状況は変わらないと予想する（広告代理店）。	
		×	・様々な原材料仕入価格が高騰しており、10月から製品価格へ転嫁するため、売上高及び販売数量が減少すると予想する（食料品製造業）。	
雇用 関連		□	・企業の手不足感は余り変わらない（学校 [大学]）。	
		▲	・この数か月増加していた宿泊業や飲食サービス業の求人数が前月比で大幅に減少しており、今後は他の産業にも影響が生じると予想する（職業安定所）。	
その他の特徴 コメント			○：酒類は値上げする前に買いだめする客が多く、ここ数か月は売上が安定すると思う（その他専門店 [酒]）。 ○：新型コロナウイルスの感染第7波が収束に向かい、秋の行楽シーズンになれば観光客が増加すると思う（観光遊園地）。	

(D I) 現状・先行き判断D I（四国）の推移（季節調整値）

